

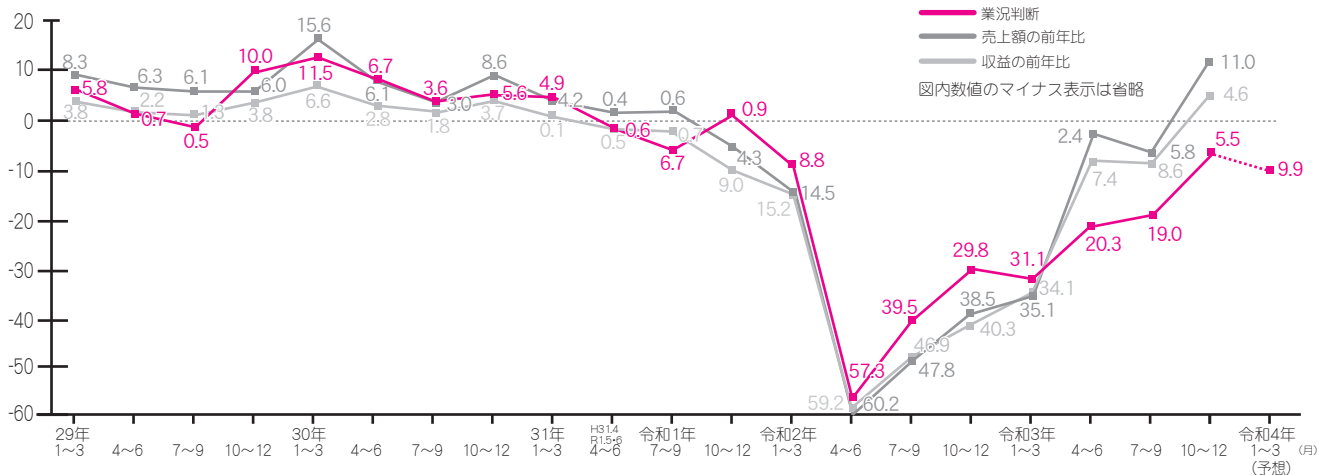
景気の概況

●経済・物価の現状と見通し

わが国の景気は、内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。海外経済は、国・地域ごとにばらつきを伴いつつ、総じてみれば回復している。そうしたもとで、輸出や鉱工業生産は、供給制約の影響による弱い動きが残っているものの、基調としては増加を続けている。また、企業収益や業況感は全体として改善を続けている。設備投資は、一部業種に弱さがみられるものの、持ち直している。雇用・所得環境をみると、感染症の影響から、弱い動きが続いている。個人消費は、感染症によるサービス消費を中心とした下押し圧力が幾分和らぐもとで、徐々に持ち直している。住宅投資は持ち直している。公共投資は高水準ながら弱めの動きとなっている。わが国の金融環境は、企業の資金繰りの一部に厳しさが残っているものの、全体として緩和した状態にある。物価面では、消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、携帯電話通信料の引き下げの影響が見られる一方、エネルギー価格などは上昇しており、0%程度となっている。また、予想物価上昇率は、持ち直している。

先行きのわが国経済を展望すると、感染症によるサービス消費への下押し圧力や供給制約の影響が和らいでいくもとで、外需の増加や緩和的な金融環境、政府の経済対策の効果にも支えられて、回復していくとみられる。（日本銀行 12月発表）

●業況判断及び売上額・収益の前年比DIの推移（全業種合計）



この調査のご案内

- 1.調査の目的** 埼玉県および東京都の一部地域における中小企業の最近の景気動向の把握と、当金庫お取引先等への経営情報の提供を目的に実施しています。
- 2.調査の時期** 令和3年12月1日(水)～7日(火)
- 3.調査の内容**
 - ・前期(令和3年7月～9月期)と比べた
 - ・当期(令和3年10月～12月期)の実績
 - ・当期と比べた来期(令和4年1月～3月期)の予想
- 4.調査対象** 当金庫お取引先企業数 460社
回答企業数 460社 (回答率 100%)
- 5.調査方法** 調査員による面接聞き取り法、またはご回答企業による直接記入法
- 6.分析方法** この調査の分析はDI(ディーアイ)を景気判断の指数として用います。DIは、「増加」「上昇」「楽」と答えた企業割合から「減少」「下降」「苦」と答えた企業割合を差し引いた数値のことで、この数値がプラスかマイナスかそしてその大きさによって景況の動きを時系列的な推移の中で分析しようとするものです。なお、「増加」には回答項目の「やや増加」を「減少」には「やや減少」を含みます。「上昇」「下降」等も同様です。従って、グラフも「増加」「不変」「減少」等の3区分で表示しています。

7.業種別・従業員(除くパート)規模別調査対象企業数

	製造業	卸売業	小売業	建設業	不動産業	サービス業	合計
1~4人	22	17	59	25	35	19	177
5~9人	26	9	17	27	15	9	103
10~19人	16	13	9	26	3	8	75
20~49人	19	3	9	14	6	6	57
50~99人	9	1	2	4	1	2	19
100人以上	8	2	6	2	2	9	29
合計	100	45	102	98	62	53	460

全業種総合

業況は悪化が大幅に弱まる

1 業況

当期(10~12月期)の全業種の業況判断は、前回調査時における当期の予想(Δ18.2)を大幅に上回りました。来期は悪化幅が拡大する予想となっています。

全業種総合の業況判断のDI(「良い」-「悪い」)は、前期Δ19.0から当期Δ5.5と悪化幅が大幅に縮小しました。来期はΔ9.9と悪化幅が拡大する予想となっています。

業況を天気図で見ますと、総合では前期「曇り」から当期「薄曇り」になりました。来期も引き続き「薄曇り」の予想となっています。

業種別では、当期は、製造業が「曇り」から「晴れ」に、卸売業が「曇り」から「薄曇り」に、小売業が「雨」から「薄曇り」に、不動産業が「薄曇り」から「晴れ」にそれぞれ好天しています。建設業とサービス業は「薄曇り」が続いています。

来期は、製造業が「晴れ」から「薄曇り」に、卸売業、小売業、サービス業が「薄曇り」から「曇り」に、不動産業が「晴れ」から「薄曇り」に悪化する予想です。建設業は「薄曇り」が続く予想となっています。

2 売上額

売上額のDI(「増加」-「減少」)は、前期Δ11.3から当期11.7と大幅に改善し増加に転じました。来期は2.2と増加幅が縮小する予想となっています。

3 収益

収益のDI(「増加」-「減少」)も、前期Δ13.5から当期5.3と大幅に改善し増加に転じました。来期はΔ5.7と再び減少に転じる予想となっています。

4 資金繰り

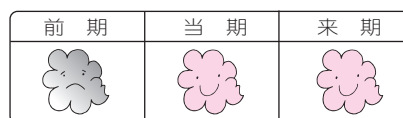
資金繰りのDI(「楽」-「苦しい」)は、前期Δ7.2から当期Δ4.5と厳しさがやや和らぎました。来期はΔ7.0と再び厳しさが増す予想となっています。

なお、民間金融機関からの借入難易度DI(「容易」-「難しい」)は、前期Δ2.1から当期3.1と容易に転じました。

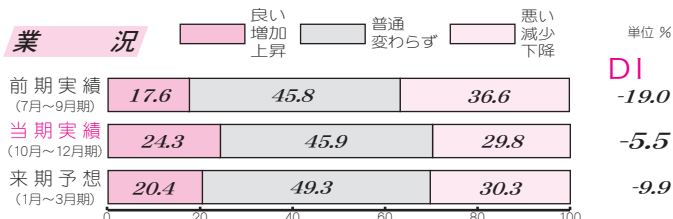
5 設備投資

設備についての過不足感は、前期Δ7.5から当期Δ9.0と不足感がやや強まりました。来期はΔ10.2と不足感がさらに強まる予想となっています。

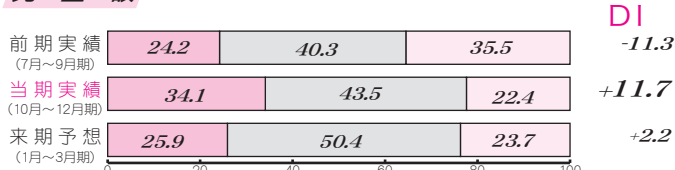
(注) この天気図は本調査のDIを総合的に判断し作成したものです。



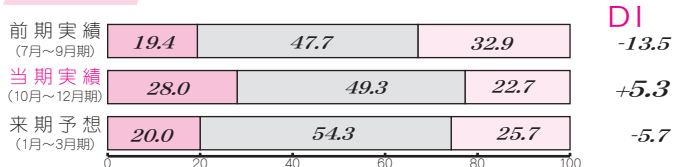
業況



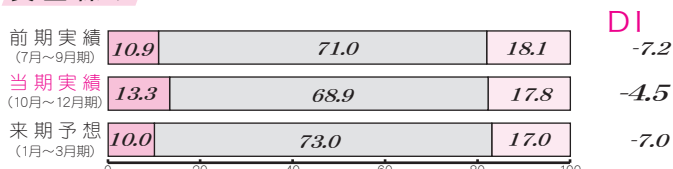
売上額



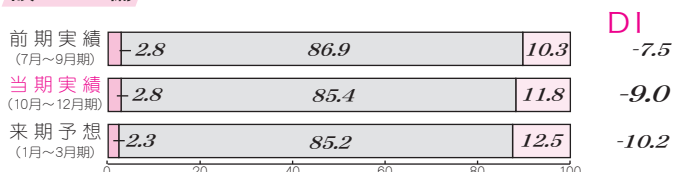
収益



資金繰り



設備



● 設備投資の実施割合

